

保育所入れなかった636人

厚生労働省の言う「待機児童」は183人

西宮市では保育所不承諾だった子どもは843人。ここから辞退した人、小規模保育所等へ入所した子どもを除くと認可保育所へ入所出来なかった子どもは、2016年4月1日現在、636人になりました。厚労省の言う定義に基づいた待機児童183人となり、この人数も昨年より107人増加しました。

市内の就学前児童数は、2006年をピークに減少していますが、就学前児童に占める保育所を希望する子どもの割合は年々増加し、今年度は過去最高の27.1%となっています。今後も保育所需要率は増えていくと見込まれます。

また、小規模保育所卒園後に認可保育所に入所(3歳児クラス)できない新たな問題が出てきています。市議団は一貫して待機児童は認可保育所で解消すべきと主張してきました。整備については民間保育所まかせではなく、公立保育所や公立保育所分園、公立幼稚園の活用等を提案しています。

厚生労働省の言う「待機児童」の定義

- ①育児休暇を延長した
 - ②求職活動を休んだ
 - ③1か所のみ保育所を希望している
- 以上の3項目のいずれかに該当した人を除く

今後3か年で1500人の受け入れ枠拡大

- ◎公共施設も含めた市有地を活用する。
 - ◎民有地の活用をする。
 - ◎パーク&ライド方式による保育所整備をする。
(駐車場に車を止めて電車で通勤する)
 - ◎私立幼稚園を活用する。
 - ◎都市公園の活用検討をする。
- ※2019年4月1日には約1500人の受け入れ枠拡大

27億円も基金があるのに国民健康保険料は据え置き

市は2016年度の国民健康保険料を2015年度と同率に据え置くと発表しました。市議団は27億円もたまっている基金を活用して高すぎる保険料の引き下げを一般質問や委員会で求めてきました。

去る、4月13日、「国民健康保険料引き下げを求める市民の会」が市と交渉し生活実態を訴えながら保険料の引き下げを求めた際、同席していた市民局長は「うまく運用する方法を考えなければ・・・基金についても積み立てることが目的

ではない。きちんと精査しなければいけない」と述べ、引き下げが期待されただけにがっかりです。市は据え置く理由として被保険者が減少傾向にあり高齢化で医療費が増加している。

赤字が出た場合は基金を活用することも考えると説明しています。

基金の活用や医療費を過大に見積もっているために料率が高くなっているとの指摘には答えていません。市議団では、市民のみなさんと一緒に引き下げを求めて今後も頑張ります。

